



七尾だより

NANA O D A Y O R I

第24号 2022年(令和4年)7月発行 七尾地区地域づくり協議会

長浜市佐野町181番地 七尾まちづくりセンター内 ☎74-0458

就任のご挨拶

七尾地区地域づくり協議会長 柴原 一夫

七尾地区にお住まいの皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

令和4年度の七尾地区地域づくり協議会会長に就任することとなりました、七尾連合自治会長の柴原一夫でございます。

平素は、七尾地区地域づくり協議会をはじめ、七尾連合自治会の運営に格別のご理解とご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大も3年を経過、緊急非常事態宣言による外出の自粛やワクチン接種の推進とリモートワークによる勤務体制等々、私たちの生活環境は大きく変化しました。

制限は徐々に緩和しつつも、以前と同様までには戻っていませんが、経済の活性化に向けた取り組みと共に、イベントの制限、飲食の緩和や屋外でのマスクの着用等々、改善に向けて進められています。

七尾地区におきましても、地域に適した協議会の取り組みを次世代に繋いでいかなければなりません。豊かな自然と歴史文化に恵まれた当地区が、本格的に少子高齢化地域となり地域との繋がりも希薄化しています。交流の機会も減少傾向にあります。地域への愛着と誇りをもつて安心安全なまちづくりに参加いただきたいと思います。

今年度も、七尾歴史巡りウォーキングや七尾山登山、世代を超えた交流グラウンドゴルフ大会、七尾音楽祭等々、気軽に参加頂ける行事等を企画しています。コロナと共存の中で安心安全に七尾地区の交流の場として、地域づくり活動を進めたいと思います。

最後になりますが、本年も七尾地区地域づくり協議会に深いご理解と温かいご支援ご協力をお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

定期総会が開催されました

4月28日(金)、七尾まちづくりセンターで七尾地区地域づくり協議会定期総会が開催されました。

協議会定期総会が開催されました。

総会では、令和3年度事業報告・会計報告、令和4年度事業計画・予算が原案どおり承認されました。

また、令和4年度の役員が次のとおり選出されました。

会長	柴原 一夫	(相撲庭町)
副会長	山田 正博	(相撲庭町)
副会長	伊藤 清文	(野村町)
副会長	伊吹 隆寛	(法楽寺町)
副会長	伊藤 敏彦	(野村町)
監事	山田 文男	(北池町)
監事	井上 主久	(佐野町)
監事		(佐野町)

令和4年度主要事業計画

実施日	事業名
9月11日(日)	高齢者グラウンドゴルフ大会
10月30日(日)	七尾秋まつり
11月3日(文化の日)	健康づくり七尾登山
11月6日(日)	世代交流グラウンドゴルフ大会
12月24日(土)	子どもと大人の交流お楽しみ会
3月13日(土)	七尾音楽祭

※新型コロナウイルスの感染拡大防止や天候等により、中止または延期になる場合があります。



七尾健康ウォーキング(6月4日)



定期総会(4月28日)

水仙の花が咲きました

七尾地域の環境整備の一環として、昨年11月に旧七尾小学校通学路沿いに植えた水仙の花が咲き、ほのかな甘い香りとともに春の訪れを知らせてくれました。
桜並木が満開を迎えると、水仙の黄色と桜の薄紅色のコントラストがとても綺麗です。
来春は、ぜひ一度、覗いてみてください。



楽しく歩いて健康に



6月4日(土)、青空が広がる好天の下、恒例の七尾健康ウォーキングが開催され、5歳から83歳までの31名が参加してくださいました。

今回は、姉川の戦いの舞台となった史跡を巡るコースで、野村町の姉川古戦場の碑から姉川を渡し、激しい戦いの拠点となった横山城跡などを散策し、古の勇将たちの面影を偲びました。

参加された皆さま、本当にお疲れ様でした。



日々雑感

2月24日、ロシアのプーチン大統領が、ウクライナに軍隊を侵攻させたニュースは、世界に大きな衝撃を与えた。

故郷を追われ、命懸けで国外に脱出する大勢の人々。破壊され、瓦礫の山に変貌した街。そして、日々、犠牲となっていく罪もない人々。当たり前のようであった平和が崩れるのは一瞬なのだと改めて思う。

さて、長年ロシアの侵略に苦しめられてきた国といえ、北欧のフィンランドを思い出す。ロシアとの国境は約千三百キロ、実に札幌福岡間の直線距離と同じくらいの長さがある。

一八〇九年からロシアに併合されていたフィンランドは、世紀末になると母国語や歴史教育まで禁止されるようになるほど苦しい時代を迎え、次第にロシアの圧政に対抗しようと独立への気運が高まっていく。

そんな中、二十世紀を代表するフィンランドの作曲家シベリウスは、祖国の状況に強い危機感を覚え、作品を通じて人々を鼓舞しようとする。こうして作曲されたのが、代表作『交響詩フィンランディア』である。

この曲は三部形式で、最初の序奏は帝政ロシアの圧政を象徴する重苦しい「苦難のモチーフ」、次にティンパニとシンバルで「闘争の呼びかけのモチーフ」が奏でられ、最後はフィンランドの勝利と独立を予感させる「勝利に向かうモチーフ」でクライマックスを迎える。

ロシアの圧政に苦しんでいたフィンランドの人々が奮い立った愛国心溢れるこの曲を聴くと、愛国心という言葉葉を抜きにしてもエネルギーが湧いてくる。

演奏時間は10分弱の曲。ぜひ、一度聴取あれ。



※YOUTUBEなら、カラヤン指揮ベルリンフィル
ハーマー管弦楽団一九六四年録音のものがお薦め。
(シベリウス自身が自分の作品の最高の解釈者はカラヤンだと述べていた。)